

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-5-2 地域生活交通の確保
---------	-------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長 伊藤 宏	電話番号	0852-22-5898
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	新幹線等の整備促進事業		
目的	(1) 対象	JRを利用する県民や観光客	
	(2) 意図	県内と大都市圏を乗り換え無しで短時間で往来できるようにする。	
事業概要	鉄道高速化に向けて、フリーゲージトレインの普及啓発、伯備線高速化の調査検討、鉄道高速化の早期実現に向けた国等に対する要望活動等の取組を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	整備促進事業回数	目標値	4.00	4.00	
式・定義	整備促進に向けての啓発活動や要望活動、意見交換会参加等の事業回数	実績値	4.00	4.00	5.00	4.00		
		達成率		100.00	125.00	100.00		%
式・定義	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値	0.00	0.00	0.00		
式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
		達成率		0.00	0.00	0.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,538	2,224
うち一般財源(千円)	1,538	2,224

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・鉄道高速化の手法としてのフリーゲージトレインについては、新幹線・在来線の基本的な走行性能に関する技術は確立された。
 ・平成26年度から島根、鳥取、岡山の3県共同で、フリーゲージトレインを伯備線に導入する場合の調査を2カ年事業で実施しており、26年度は導入に関わる線路の改修箇所の集約を行い、27年度は改修費用や時間短縮効果の試算を行っている。
 ・伯備線へのフリーゲージトレイン導入等を国・JR西日本へ要望した。松江駅にフリーゲージトレイン導入促進啓発看板を設置し、県民や観光客に対して広報を行っている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

伯備線へのフリーゲージトレインの導入に係る基礎調査に平成26年10月に着手し、高速化のための改良箇所の抽出等を行った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 - ・平成26年4月より、新型試験車両による耐久走行試験が開始されていたが、不具合が発生し、現在は走行試験が見合わせされている。
 - ・フリーゲージトレインの導入効果（時間短縮）を高めるために、伯備線・山陰線の線路改良が必要になる。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 - フリーゲージトレインの導入効果（時間短縮）を高めるために、振り子機能の開発や伯備線・山陰線の線路改良が必要である。
- ③原因を解消するための「課題」
 - 国土交通省等から情報収集を行いながら、鳥取県・岡山県と情報共有を図り、フリーゲージトレイン導入の検討を進める。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・フリーゲージトレイン開発の進捗状況を国土交通省、鉄道運輸機構などから情報収集を行いながら、島根・鳥取・岡山の3県共同で実施している調査を進め、フリーゲージトレイン導入の検討をしていく。
 ・国に対しては、鉄道高速化に向けて新たな技術の導入などを早期に進めるとともに、建設事業費への新たな財政支援制度を創設することを要望していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）